

テーマ：消費者物価（全国17年6月、東京都区部7月）

～物価の基調が上向き気配はみられない～

発表日：2017年7月28日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528

（単位：％）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
16	1月	▲ 0.1	▲ 0.1	0.6	▲ 15.2	1.9	▲ 0.2	▲ 0.1	0.4	▲ 16.4	1.7
	2月	0.2	0.0	0.6	▲ 14.2	1.9	0.2	0.0	0.6	▲ 15.5	1.8
	3月	0.0	▲ 0.3	0.6	▲ 17.7	1.8	0.1	▲ 0.1	0.6	▲ 20.6	1.8
	4月	▲ 0.3	▲ 0.4	0.5	▲ 14.7	1.4	▲ 0.3	▲ 0.3	0.6	▲ 15.5	1.4
	5月	▲ 0.5	▲ 0.4	0.5	▲ 14.8	1.2	▲ 0.5	▲ 0.4	0.5	▲ 15.4	1.1
	6月	▲ 0.4	▲ 0.4	0.5	▲ 13.2	1.3	▲ 0.4	▲ 0.3	0.4	▲ 15.3	1.2
	7月	▲ 0.4	▲ 0.5	0.3	▲ 13.7	1.2	▲ 0.4	▲ 0.4	0.2	▲ 15.3	1.0
	8月	▲ 0.5	▲ 0.5	0.2	▲ 12.0	1.1	▲ 0.5	▲ 0.4	0.1	▲ 13.4	0.9
	9月	▲ 0.5	▲ 0.5	0.0	▲ 9.3	0.8	▲ 0.5	▲ 0.5	▲ 0.1	▲ 9.8	0.9
	10月	0.1	▲ 0.4	0.2	▲ 8.0	0.6	0.1	▲ 0.4	0.1	▲ 8.2	0.5
	11月	0.5	▲ 0.4	0.1	▲ 4.9	0.5	0.5	▲ 0.4	0.0	▲ 3.5	0.5
	12月	0.3	▲ 0.2	0.0	0.5	0.5	0.0	▲ 0.6	▲ 0.2	2.4	0.2
17	1月	0.4	0.1	0.1	9.2	0.6	0.1	▲ 0.3	0.0	11.7	0.5
	2月	0.3	0.2	▲ 0.1	13.2	0.7	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.1	14.4	0.4
	3月	0.2	0.2	▲ 0.3	16.2	0.7	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.4	19.7	0.3
	4月	0.4	0.3	▲ 0.3	12.8	0.8	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.4	14.3	0.7
	5月	0.4	0.4	▲ 0.2	11.2	0.8	0.1	0.1	▲ 0.2	11.6	0.6
	6月	0.4	0.4	▲ 0.2	6.6	0.9	0.1	0.0	▲ 0.4	7.1	0.5
	7月	—	—	—	—	—	0.1	0.2	▲ 0.3	8.1	0.6

（出所）総務省統計局「消費者物価指数」

○都区部は事前予想上振れだが、物価の基調は弱いまま

総務省から発表された17年6月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+0.4%と、前月から変化はなかった（下二桁では5月+0.42%→6月+0.38%）。また、7月の東京都区部は前年比+0.2%と、前月から0.2%Ptの改善となった。7月の都区部は事前予想（+0.1%）をやや上振れたものの、エネルギー以外の部分に弱さがみられる状況は変わっておらず、物価の基調は未だ改善がみられない。先行き、10月頃まではエネルギー価格主導でCPIコアは上昇率を拡大させる可能性が高いが、前年比+1%に到達するのは難しそうだ。また、その先については、エネルギー以外が伸び悩むなかでエネルギー価格の押し上げが弱まることで、CPIコアも上昇率が縮小する可能性があることに注意が必要だろう。

○エネルギー以外はゼロ近傍の推移が続く

6月の全国CPIコアは前年比+0.4%と、前月から上昇率は変わらなかった。エネルギー価格、除く生鮮食品・エネルギー（日銀版コアコア）とも前月から大きな変化はなかった。

エネルギー価格は前年比+4.9%と、前月の+5.1%と上昇率は僅かに縮小した（前年比寄与度：5月+0.38%Pt → 6月+0.36%Pt）。ガソリン価格の下落により前年比でのプラス寄与が縮小（前年比寄与度：5月+0.23%Pt → 6月+0.12%Pt）した一方、電気代・ガス代では、昨年未からの燃料価格上昇の影響が

出ていることから上昇率が拡大（前年比寄与度：5月+0.06%Pt → 6月+0.17%Pt）したことで、エネルギー全体としては前月から大きな変化なしとなっている。先行きについては、ガソリン等の石油製品価格の伸び率縮小は止まる一方、電気代、ガス代の上昇が続くため、エネルギー価格のプラス寄与は拡大する可能性が高いだろう。

除く生鮮食品・エネルギー（日銀版コアコア）は前年比横ばいと、前月から変化無し（下二桁では+0.05%→+0.01%とやや伸びが縮小）。これで3ヶ月連続で前年比横ばいであり、エネルギー以外の部分の伸び悩みが鮮明になっている。物価の基調は引き続き弱いと判断して良いだろう。内訳では、食料品（生鮮食品除く）は前年比+0.9%となった（5月+0.8%）。乳酸菌飲料などで伸びが鈍化した一方、規制強化の影響でビール、発泡酒、ビール風アルコール飲料などが大幅に値上がりしており、食料品全体では前月から上昇率がやや拡大している。食料品は、16年末をボトムとして緩やかな上昇傾向にあると判断される。また、食料品以外については、外国パック旅行や宿泊料などが押し下げに寄与した一方、携帯電話機やはがきなどが押し上げており、全体としては前月から大きな変化はみられなかった。

○ 都区部は前月から戻すも、強さはみられない

17年7月の東京都都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+0.2%と、前月の0.0%から0.2%Ptの改善となった。市場予想（+0.1%）をやや上回る結果である。エネルギー価格が上昇率を高めたことに加え、除く生鮮食品・エネルギー（日銀版コアコア）で前月の落ち込みからの戻りがみられたことで、CPIコア全体ではやや大きめの改善となっている。

エネルギー価格は前年比+5.3%と、前月の+3.4%から上昇率を拡大させた（前年比寄与度：6月+0.17%Pt → 7月+0.26%Pt）。電気代・ガス代が前年の裏の影響もあって伸びが高まっており、押し上げ要因となっている。

除く生鮮食品・エネルギー（日銀版コアコア）は前年比▲0.1%と、前月の▲0.2%から下落幅がやや縮小した。ルームエアコンや電気炊飯器などの家庭用耐久財が押し上げに寄与していることが目立つほか、前月に押し下げ要因となっていた外国パック旅行が、今月は逆に押し上げに効いていることも影響している。前月は、日銀版コアコアが0.2%ポイント悪化し、先行きの動向が心配されていたが、とりあえず今月は小幅ながら改善しており、懸念がやや和らぐ形になった。とはいえ、日銀版コアコアは、17年3月が▲0.2%、3月が▲0.1%、4月が0.0%、5月が▲0.2%、6月が▲0.1%と、ゼロ～小幅マイナスで一進一退の動きが続いている。一段の悪化こそ避けられたものの、物価の基調が上向き気配はまだ見えてこない。景気は良好な状態が続いていることに加え、（昨年対比での）円安によるコスト転化の必要性という物価上昇要因があるにもかかわらず、企業は値上げに対する慎重姿勢をいまだに崩していないようだ。

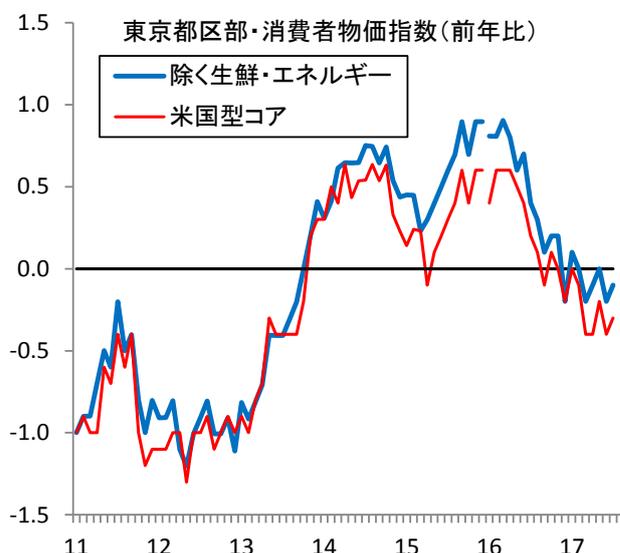
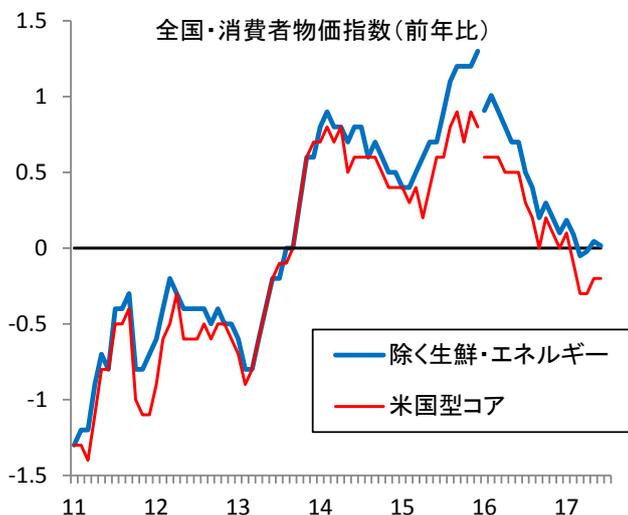
○ 秋まで上昇率拡大も、年末以降、鈍化に転じる可能性も

先行きについては、CPIコアは徐々に上昇率を高めると予想している。上昇の主因はエネルギー価格、なかでも電気・ガス代だ。電気代・ガス代については燃料価格上昇の影響が遅れて顕在化することに加え、16年の水準が低いことも前年比での押し上げ要因になる。エネルギー価格のプラス寄与は今後拡大していく可能性が高く、それに伴ってCPIコアも17年秋にかけて上昇率を拡大させていくだろう。

ただ、物価は上昇するといってもほぼエネルギー頼みであり、エネルギー以外の部分については低迷が続くとみられる。CPIコアの前年比+1%乗せは難しくなっており、ピーク時でも+0.7%～0.8%程度にとどまるとみられる。

また、さらに問題なのは来年の物価動向である。当面、CPIコアは上昇するとみられるが、その上昇を主導するエネルギー価格については、18年にはプラス寄与が縮小していくことになる。この縮小分をエネルギー

ギー以外の部分でカバーできれば良いのだが、足元の米国型コア、日銀版コアコアの伸び悩みを見る限り、到底楽観的にはなれない。もしエネルギー以外の改善が今後もみられない、もしくは改善度合いが小幅なものにとどまる場合、18年の物価は17年対比で伸び率を縮小させていくことになるだろう。+2%達成が難しいのはもちろんだが、18年度にCPIコアが伸び率を高めるだけでも相当ハードルが高いということは認識しておく必要があるだろう。



(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」
(注) 消費税率引き上げの影響は除いている



(出所) 総務省統計局「消費者物価指数」
(注) 消費税率引き上げの影響は除いている